

国内線・今そこにある危機

航空経済紙「Aviation Wire」から見た日本の現状

代表取締役社長 兼 創刊編集長 吉川忠行

本日お話すること

- Aviation Wireとは
- ・航空業界の現状
- 国内線クライシス
- 海外から見た日本
- ・情報発信の課題

Aviation Wire 2 1 t

Aviation Wire 2 13

【創刊13周年】日本初の航空経済紙

- 2012年2月1日創刊。日本初の航空に特化した経済紙
- 専門紙(誌)でも業界紙(誌)でもネットメディアでもありません
- 専門知識がなくても読める独自取材の記事
- Yahoo!ニュース、Google、日経テレコン、Dow Jones、アプリなどに配信
- スクープや特集、速報、ゆるいネタまで
- 編集部員2人の「フルサービス・ローコスト・メディア」

Aviation Wire 2 1

取材に王道なし

- 紙上最大のスクープ: スペースジェット開発中止
- コストよりも現場取材
- 報道機関は取材先に対し「是々非々」であるべき
- 読者を取材先より優先する
- 公共性や公益性を重視し、取材先の圧力に屈しない
- ツアーや物販につながる「モノが売れるメディア」

Aviation Wireとは

創刊編集長

吉川忠行(よしかわ・ただゆき)

1972年東京都生まれ

法政大学人間環境学部卒

海外製音楽制作ソフトウェア・シンセサイザーなどの大手輸入代理店を経て 2004年12月にライブドア入社。ポータルサイト初の独自報道部門立ち上げに参画し記者として経済・政治・社会分野を取材。2007年3月の部門閉鎖まで在籍し会社都合退職。 2007年4月にソフトバンク傘下のオーマイニュース入社。2008年7月に会社都合退職。 2008年9月から世界三大通信社の仏AFP通信社などで取材を続け、2012年弊紙創刊。

航空業界の現状







新幹線との競合

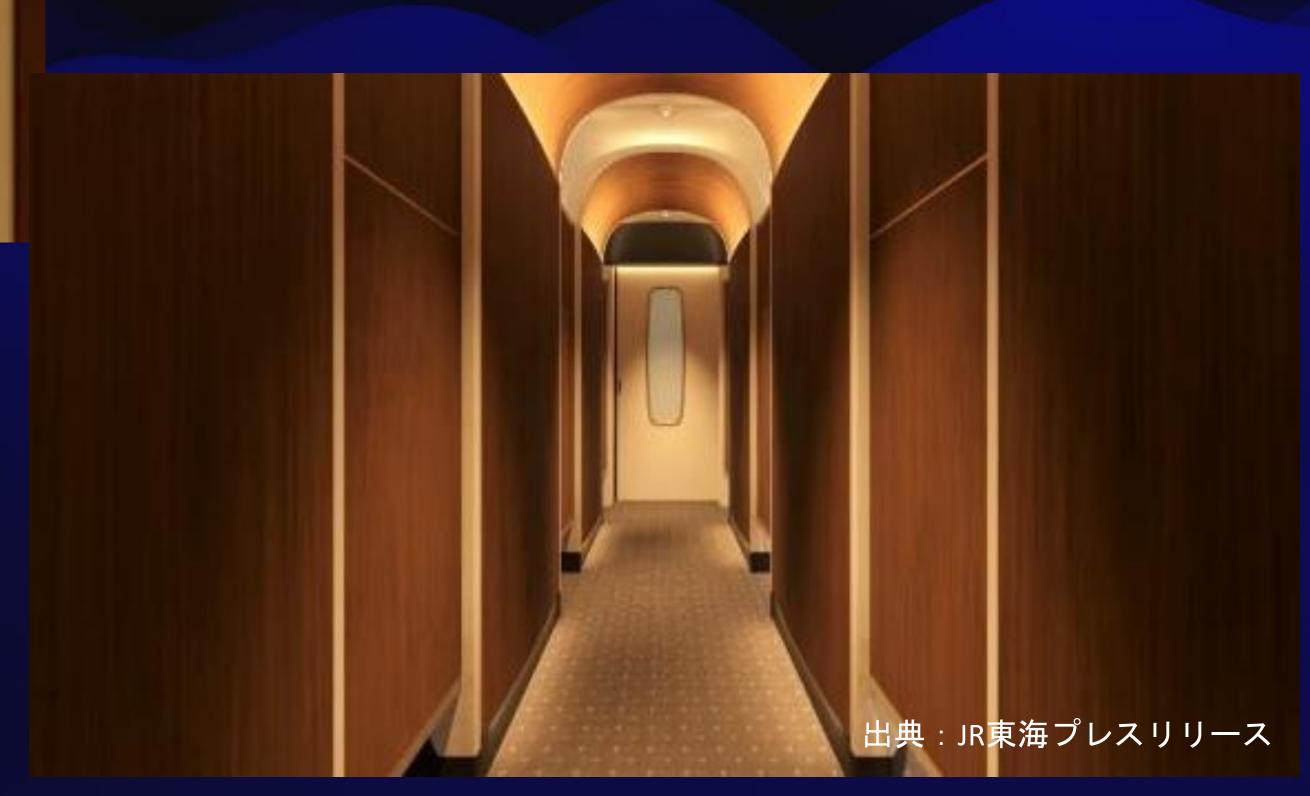
- 本邦航空会社のサービスに近づく新幹線
- ・早期割引運賃や高級化
- 完全個室 2026年秋
- 半個室 2027年度中



新幹線との競合



• 東海道新幹線 半個室



JAL A350-1000 ファーストクラス



© Aviation Wire

JAL A350-1000 ビジネスクラス



© Aviation Wire

ANA 777-300ER
ファーストクラス



© Aviation Wire

ANA 777-300ER ビジネスクラス



© Aviation Wire

国内線機材の今

ANA 787-10 プレミアムクラス





JAL A350-900 ファーストクラス







- 大手2社もコロナ前から採算悪化
- ・中堅航空会社はほぼ国内専業
- ・大手とLCCに二極化
- 海外LCCの猛攻

JAL鳥取社長

「目的があれば移動していただける」



「ビッグイベントが国内線のカンフル剤になるのか」

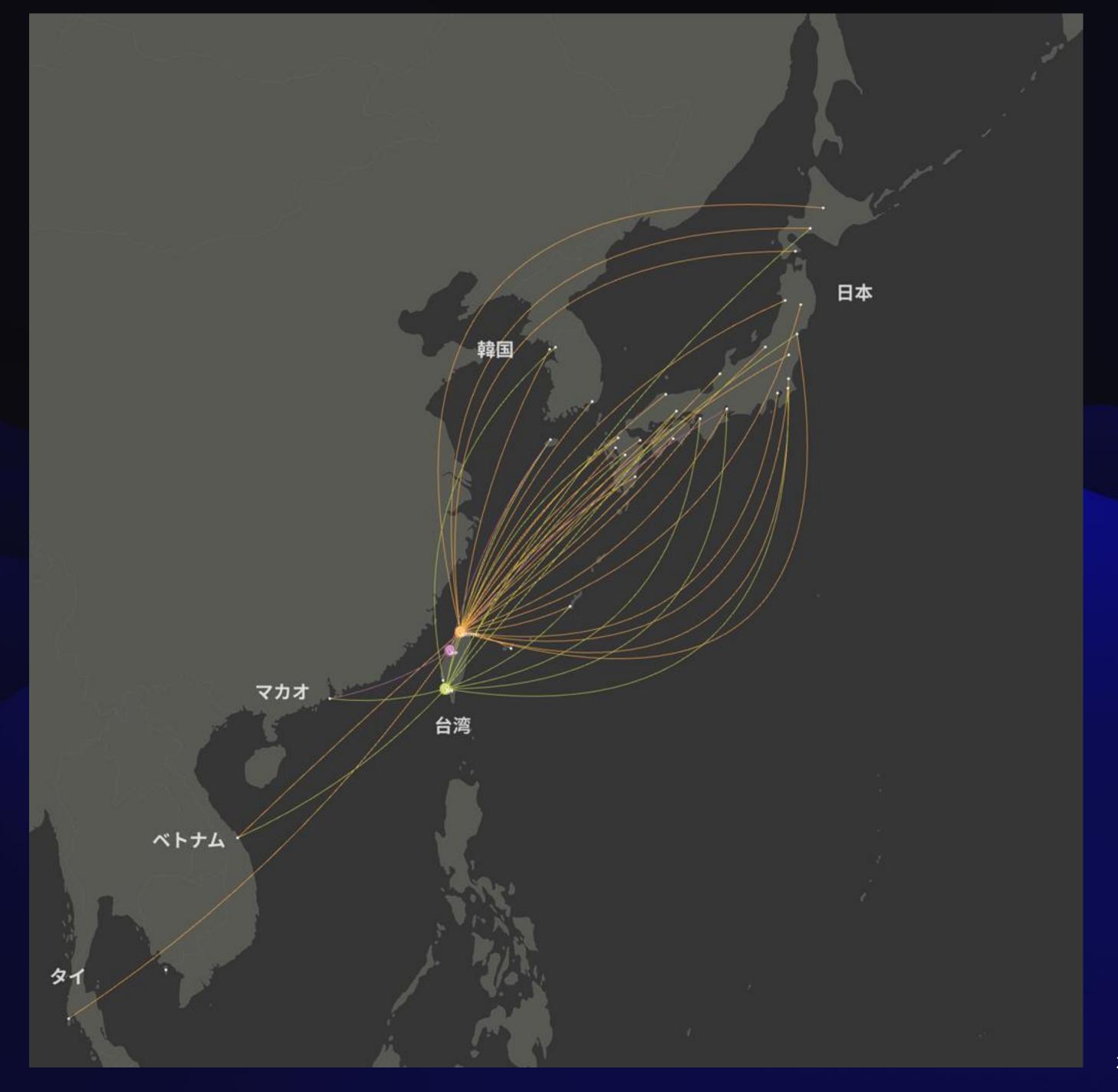




© Aviation Wire

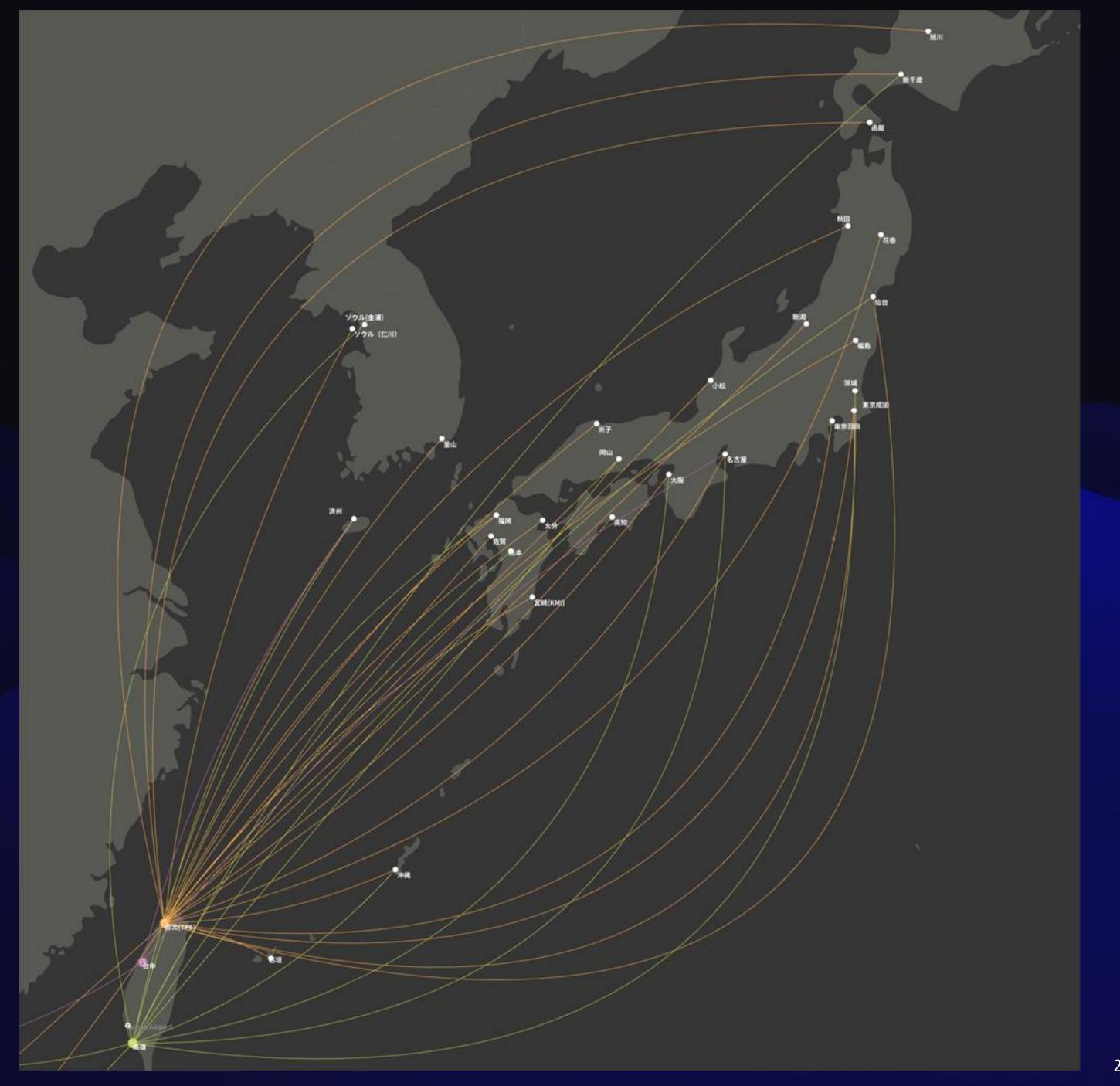
タイガーエア台湾

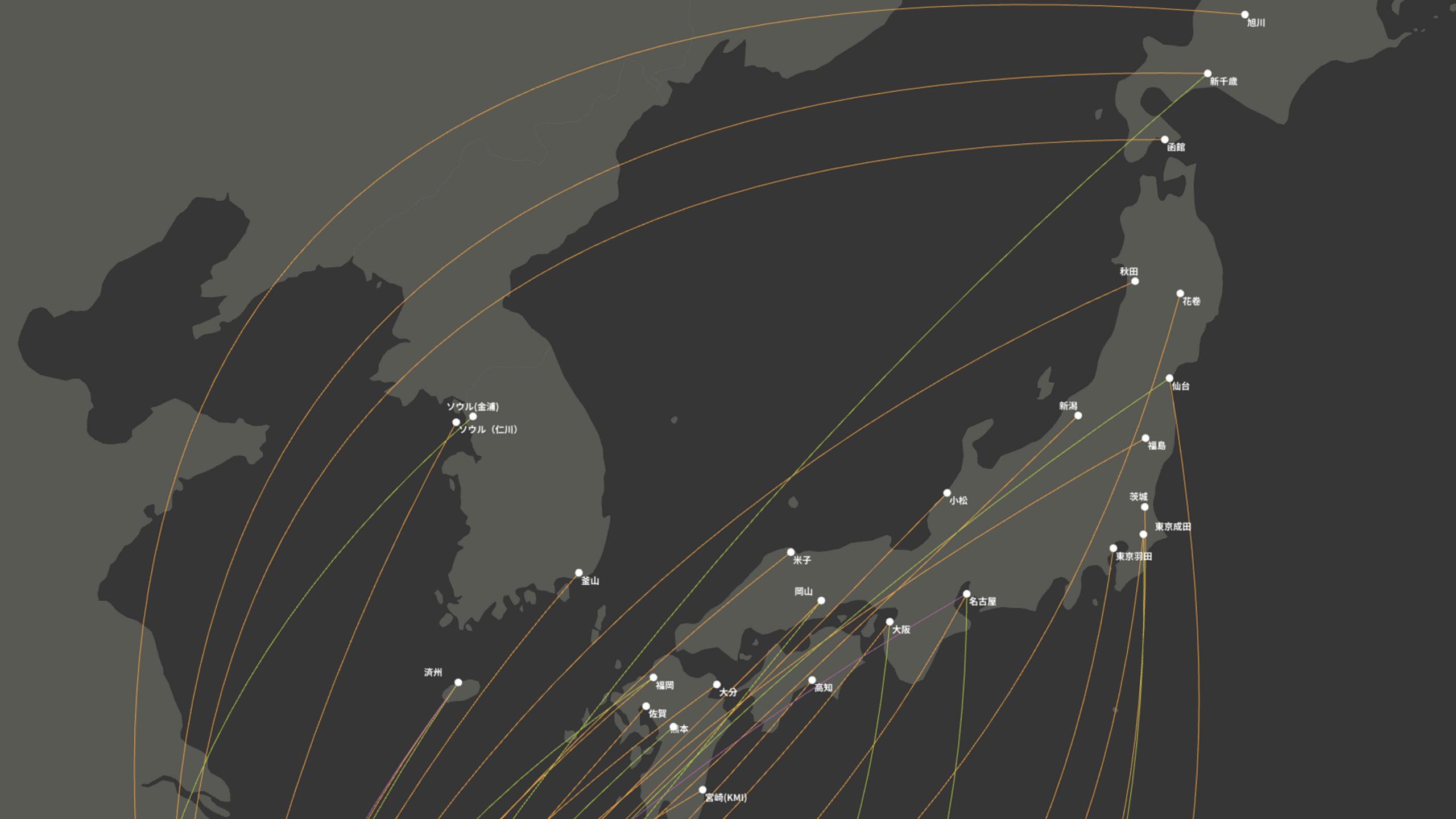
チャイナエアライン傘下LCC



タイガーエア台湾

チャイナエアライン傘下LCC







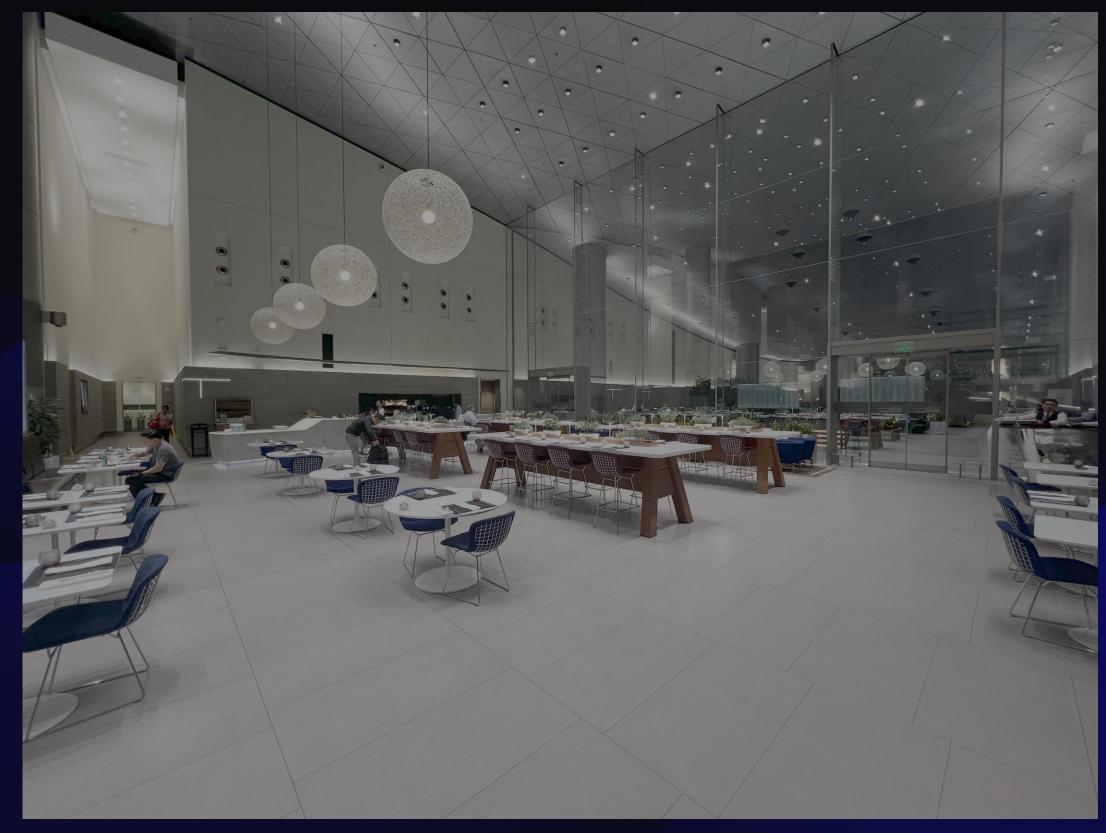
- ・コロナ後の変化が理由?
- ・なぜ国際線をやらない?
- ・以遠権活用の可能性は?
- 航空会社数は適正規模?
- グループ内部経済は妥当?
- ・人口減少を前提にしている?
- 空港民営化は妥当?



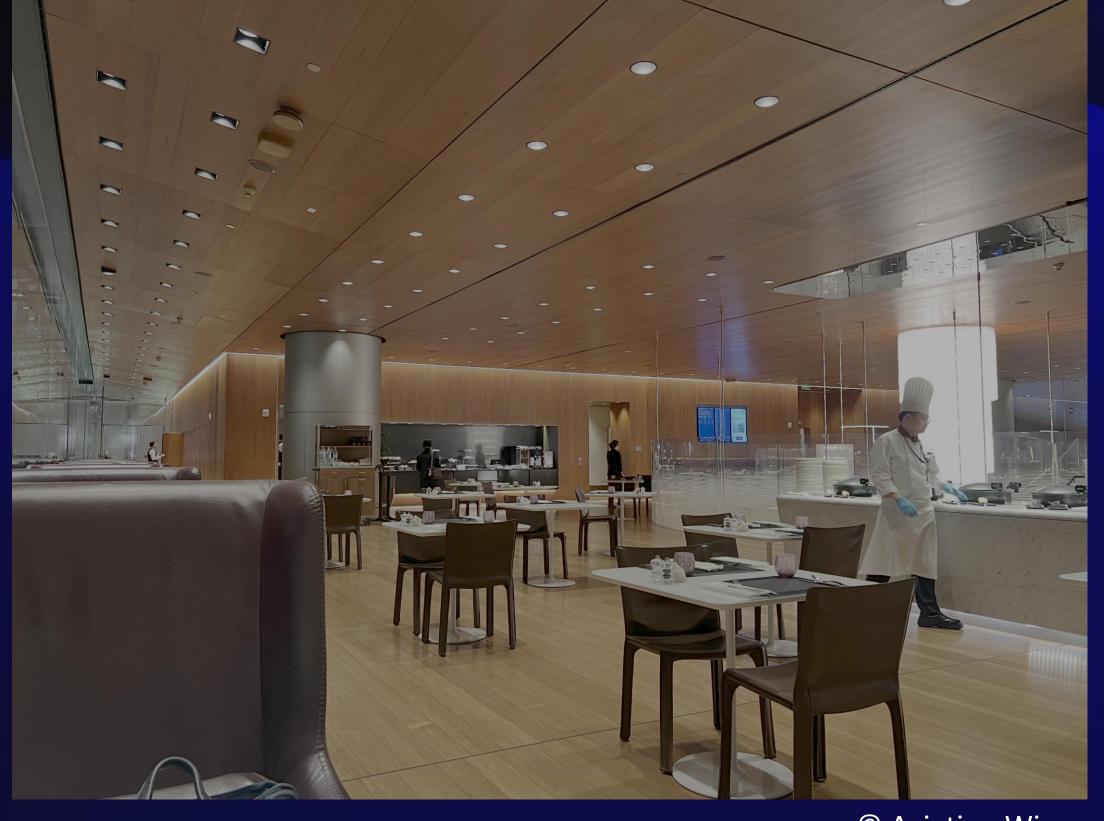
© Aviation Wire

海外から見た日本

「模倣困難」は本当か



・カタール航空ドーハ・ハマド国際空港



© Aviation Wire

中東勢はソフト面でも猛迫

現金しか使えない不便さ

うさすがに変化

配車アプリが使えない不便さ

与多少不少?

日本人が迷う多言語化

ラメリハリが重要

情報発信の課題

情報発信の課題

- なぜ地元の記者クラブにしか取材案内を出さないのか?
- なぜ画像を一緒に提供しないのか?
- プレスリリースは論文ではない
- 新聞は取材対象を県政・事件事故に集約傾向
- 保安検査や撮影条件が羽田空港より1日数便の空港が厳しい謎
- ●「報道・広報」と「広告・宣伝」の違いが理解されていない
- 「記事が載ること」ではなく「中身」を評価しないと無意味

ありがとうございました